



指などを切っても、血が出ないことがあるのはなぜ

傷が浅いため

指などを切っても、血が出ないことがあるのは、傷が浅いためです。

わたしたちの体の皮ふは、表皮・真皮・皮下組織の3階建てになっています。血管や神経がきているのは、表皮の下の真皮の部分なので、ここを切るなどのけがをすると、血が出るのです。

つまり、傷が浅い場合には、体の最も外側の皮ふ(表皮)には、血管も神経もきていないため、切ったり皮ふがむけたりしても、血が出たり痛みを感じたりしないのです。

けがをすると血が出るのは

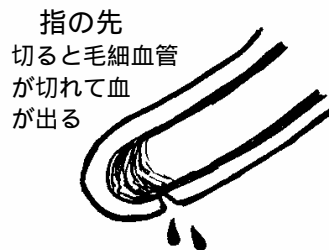
体のすみずみまで、ほとんどのところに血管と神経があります。それで、切るなどのけがをすると、血が出たり、痛みを感じたりするのです。

人間の体は、約60兆ほどの、小さな小さな細胞が集まってできており、その細胞が活動するのに必要な酸素や栄養を、体のすみずみにまで運ぶ役目をしているのが血液です。

そのため、血液を流すための血管は、体のすみずみにまであみの目のように、はりめぐらされているのです。そのため、切るなどのけがをすると血が出るのです。(監修・保志 宏)



指の先まで
血管はきている



指の先
切ると毛細血管
が切れて血
が出る

